

19. 地震と火事には強いはずの住宅が水にはどうか・・・

樋口俊子 60代 会社役員 横浜市港北区在住

- どこに誰といましたか。

自宅の2階で、テレビの国会中継を見ていました。そこへ緊急地震速報が入りましたので、1階にいる主人に知らせに行き、また2階へ上がったところ揺れ出しました。いままで経験したことがないほどの揺れで、立っていられず、やっと椅子につかまっていた。国会も、文字通り揺れていました。

- そのときとった行動は？

2階でガスや電気の火の元を消したところ1回目の揺れが来ました。窓を開けました。2回目の揺れがおさまり、ベランダに出て近所の様子を見ました。何軒か先の奥さんが外へ出ていましたが、私に気づき、とても怖かったと言いました。隣がお年寄りの1人住まいなのでいつも気にしています。そのときもすぐ電話をしましたが、電話がつながりませんでした。ご近所での声かけの大切さを感じました。

- 自宅の被害はありませんでしたか。

自宅は1999年に建てた軽量鉄骨の3階建ヘーベルハウスで、火事にも地震にも強いはず。阪神大震災や近所の火事の経験からして、とくにこのような建物を選びました。収納は全部作り付けで、モノも気を付けて置いていたので、まったく被害はありませんでしたが、玄関にあった姿見の鏡が倒れていました。ただ後で、近所の鶴見川にも津波の余波が来たと聞き、水に対する備えはしていないことに気が付きました。

防災については日ごろ、懐中電灯、保存食、水、缶詰などを備えていますが、今回の経験から、今は2人住まいですがこれらを各階ごとにおくようにしました。震災後も余震があるので、3-4週間は地震に敏感になっていました。いまでも、いつ地震が来るか不安を感じています。震災後は、携帯ラジオとランプはいつも身に付けて出かけています。

- 最後にひとこと。

震災後、日々を大切に生きようという思いがより強くなったように思います。

2011年7月13日